

江戸川河口だより

「出張所だより」は江戸川河川事務所のホームページ
(<http://www.ktr.mlit.go.jp/edogawa>)に掲載しています

国土交通省関東地方整備局
江戸川河川事務所
江戸川河口出張所発行
電話03-3679-1460
2009年08月27日【号外5号】

江戸川の洪水を安全に海に流すために、江戸川放水路と行徳可動堰が造られました 江戸川放水路は大正5～8年、行徳可動堰は昭和25～32年に施工

江戸川は、京葉道路の下流側（江戸川区東篠崎町と市川市河原）で、旧江戸川と江戸川（放水路）の2つに分かれています。「何故？」と思われる方が多いので施設の簡単な紹介と、この紙面では行徳可動堰の施設紹介を行います。

- ・江戸川放水路：江戸川下流部（旧江戸川）は、川幅が狭く蛇行しており洪水を安全に海へ流すことが困難であるため、江戸川放水路を開削して造りました。（大正5～8年）
- ・江戸川水閘門：水需要が増えたことにより、江戸川からの安定的な取水を可能にするとともに、塩水遡上を防止することと水運の確保を目的に、旧江戸川に水閘門を設置しました。（昭和11～18年）
- ・行徳可動堰：江戸川放水路流頭部（旧江戸川との分岐点）は、当初固定堰（ゲートが無く洪水時に越流する構造）でしたが、昭和22年のカスリーン台風を受け、江戸川の計画洪水流量が大幅に増えたため、洪水時に効率よく水を流すように川底を低くしたことにより、平常時の塩水遡上防止のため、ゲートが開閉できる可動堰に造り直しました。（昭和25～32年）



※『江戸川水閘門』の紹介は、08年4月12日号外2号で行っています。

江戸川の水位情報などは、<http://www.ktr.mlit.go.jp/edogawa/m/> をご覧ください。（携帯）

行徳可動堰は 通常時 洪水時 どのように運用しているのでしょうか

行徳可動堰は、江戸川放水路の上流端にあった床固（固定堰）を、ゲートを着け（可動堰）効率よく洪水を海へ流すために造った施設です。ここ数年間は、毎年1回程度ゲートを開け洪水を下流へ流しています。この施設の通常時と洪水時の役割は、次のとおりです。

行徳可動堰通常時・洪水時の運用

通常時 : 塩分が江戸川上流部に上がらないようにゲートを閉めています。

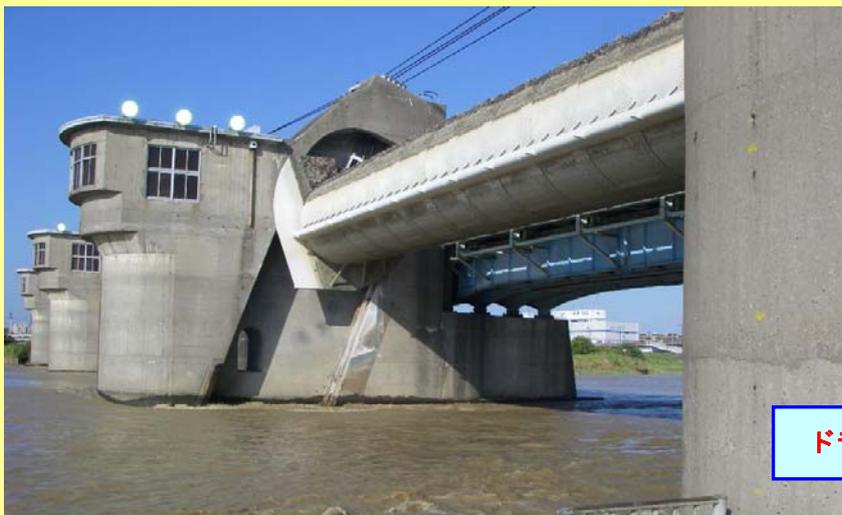
洪水時 : 3門のゲートを開け、洪水を安全に流下させます。



ゲートが閉まっている状態



ゲートが開いている状態



このゲートを開けることにより、上流で水に浸かっているグラウンドなどの水が早く引けたり・・・。
旧江戸川の水位も下がります。
このゲートは、ローリングゲートと呼ばれ、1門の長さが30m、直径3.5mあります。

ドラム缶を細長くしたようなゲート

(あしがき)

行徳可動堰は古い施設であり、毎月1回以上施設の点検を行っています。この可動堰を開ける時は、事前にホームレスの方々へ増水の周知、漁業組合などの機関への連絡などの準備を行い、2時間前から約500mに一人の安全点検者を配置して点検を行っています。皆様も増水時には水辺に近づかないで下さい。